

令和8年度新潟大学歯学部口腔生命福祉学科  
学校推薦型選抜試験

小論文試験問題用紙

[注意事項]

- 1 資料を読む時間と問題を解答する時間を合わせて120分です。
- 2 試験開始の合図があるまで、配付された用紙に手を付けてはいけません。
- 3 試験開始の合図とともに、次の用紙がそろっているか確認してください。  
不備の場合は、監督者に申し出てください。

[配付用紙]

- 問題用紙： 4枚（この[注意事項]の用紙を含みます。）  
解答用紙： 4枚  
下書用紙： 3枚

- 4 解答は、所定の解答用紙に横書きで記入してください。
- 5 文字は楷書を用いて記載してください。なお、一般に用いられていない略字及び略語は、使用しないでください。
- 6 受験番号は、問題用紙、解答用紙、下書用紙の指定された箇所全てに記入してください。
- 7 机の上には、受験票、黒鉛筆（黒シャープペンシルを含みます。）、消しゴム、鉛筆キャップ、鉛筆削り（電動式を除きます。）、時計（計時機能のみ）、眼鏡、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー（袋または箱から中身だけ取り出したもの）以外のものを置いてはいけません。
- 8 問題用紙、解答用紙、下書用紙は、すべて回収します。

受験番号	
------	--

以下の文章は、日野原重明著 いのちの器 PHP 文庫 の抜粋です。

この文章を読んで、問1～3に解答しなさい。

#### 言葉と医療 病は語り合いの中で癒やされる

人間は独りで生きることにはできない。特殊な状況でない限り、人間は独りでは生きられない生きものである。人間は他の人との関わり合いの中で生きるが、その生き方は、環境としての人間関係の中でレイアウトされていくのである。

医師はいろいろな人の健康問題を解決する使命のもとに、数多くの人と出会う。学校の先生も同様であるが、医師の方が男女老若を問わず、また、国籍を問わず、より多くの人々に出会い、しかも初回の出会いからその交わり方は深く、しばしば私生活にも入り込む。問題解決のための資料がいるからである。信用する医師のところには、子供が親に話せない悩みをもっていくことがあり、また、夫や妻がお互いに真実を話し合えずに、秘密をもって医師のところにとりて相談に来ることがある。せつばつまった患者は、信用する医師があれば、身も心も裸にして医師に救いを求めたいという気持ちをもつことが多い。

しかし、現実とはなかなかそうはいかない。多くの場合、医師の前に立った患者は、何と医師にもものが言いにくい。医師には時間がなく、医師は絶えず待たされている次の患者のさばきばかりに気をとられていることが多い。医師は病人の言葉をじっと聴こうとするようなポーズをとっていないことがよくある。病人はどの程度に自分の問題を詳しく述べてよいかの判断に迷い、いくつかの問題の中の一つ、二つをやっと口に出す。

ところが、その言葉の内容は、患者からみるとはるかに上位に立つ医師には届かない。医師はまた高所から一方的に病人の問いへの「答えにならない医学的知識」を投げおろす。そこで患者はますます控えめになる。患者やその家族は、医師に対して聞きたいことをどれだけ聞いてよやかに迷う。患者に医療を授けるといったポーズをとる若い先生の前では、人生経験の豊かな人々でも、気の毒なほどに卑屈になっている。医師は患者からいろいろな訴えや不安や問題をよく聴かない限り、患者の病気を診断することができない。

一方、医師が患者に病気になった理由や診断のための検査の手技や意味、そして、治療方針や予後などについて、穏やかに、しかもダイジェストした言葉で説明するということがされない限り、患者には医師の言うことやすることの意味が理解されず、また、医師から心の安らぎを得ることができない。

患者は「この薬は何という降圧剤ですか」「費用はどうなるのですか」など聞きたいのに、医師はなぜもっと親切に患者の納得のいくように答えないのか。

ヴェルギリウス（紀元前七〇～前一九）というローマの詩人は、当時の医学を「無言の技」(the silent art)と呼んだという。そして、聞かない、かつ答えない無言に近いアートとしての医学が現代ますます医師の口を閉ざしているのではなかろうか。

病人や家族との心おきない会話、高座からの一方的な命令ではなく、医師と患者とが水平に語り合う、その中でこそ病が癒される過程が進行する。これが本当の医のアート (art of medicine) だと私は思う。

単なる口先だけの治療ではなく、そこにはやさしい言葉を媒介とした情報提供がなされなければならない。だが、その前に患者の用意した情報を客観的検査データに負けない重要性をもつものとしてとらえるために、医師はもっと患者の言葉に耳を傾けなければならない。

患者の訴えに耳を傾けると、そこから診断さえ流れてくることを私自身知らされてきたのである。

医学は単なるハードの分析科学ではない。ソフトのアートが病人と医師とのきずとなり、それが、患者に病気の癒しと心の安らぎとを与える。この患者と医師とのコミュニケーション、それには言葉というメディアを欠かすことはできない。

日野原重明 著 いのちの器 PHP 文庫より

※※ 問題文は次ページにあります。 ※※

【問1】

医師と患者の関係性およびコミュニケーション（対話）について著者はどのように述べているか、本文を参考に 500字以内で記述しなさい。

【問2】

下線部の「無言の技」(the silent art) とは何を意味しているのか。 80字以内で述べなさい。

【問3】

本文およびあなた自身の経験を踏まえながら、あなたが考える理想的な医師像について 500字以内で記述しなさい。

※※ 問題は以上です。 ※※